

# 二宮清純氏 来る!



## NUPRI わいがやサロン・スペシャル



[テーマ]  
スポーツによるコミュニティ再生

[講師]  
二宮清純氏 (スポーツジャーナリスト)

日時/平成19年2月22日[木]  
(開場)午後1:30~ (開演)午後2:00~3:30  
会場/ホテル国際21 (3F千歳の間) 長野市県町576

**二宮清純** (にのみや せいじゅん)  
1960年2月25日 愛媛県八幡浜市出身。日本大学商学部卒業。  
スポーツ紙等の記者を経て、フリーのスポーツジャーナリストとして独立。オリンピック、サッカーW杯、メジャーリーグ、ボクシング世界戦等、国内外のスポーツを観戦・取材。1996年ドキュメンタリー「野茂&ラモスのドリームトーク」(ニッポン放送)でギャラクシー賞優秀賞を受賞。  
スポーツ文化をより多くの人々が楽しめるようにと、1999年にインターネット・マガジン「Sports Communications」を立ち上げ、地域に密着したスポーツクラブづくりに取り組む一方、「ブロードキャスター」(TBS)のコメントーターをつとめる等、幅広く活躍中。

■主な著書  
「勝ち方の美学」講談社 「奇跡のリーダーシップ」小学館 「最強のプロ野球論」講談社現代新書  
「勝者の組織改革」PHP新書 他

聴講無料

聴講整理券をお送りします。  
定員250名様

●お問い合わせ TEL.026-235-7911

## W a i - g a y a s a l o n ' s t r a c k s

第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって  
平成18年9月19日(火) 17:00~19:00

講師 佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長  
樋口博さん 長野市産業振興部観光課課長

平成19年1月からNHKの大河ドラマとしてスタートする「風林火山」をめぐって、マスコミと連携した街づくりの可能性を探りました。

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを  
平成18年10月23日(月) 17:00~19:00

講師 久米えみさん ながのクラッセ会長  
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

「街に出よう・自分たちができることから始めよう」と、地域に根ざした街づくりを展開する「ながのクラッセ」の活動を紹介します。

第3回 スポーツによる街づくりを  
平成18年11月21日(火) 17:00~19:00

講師 鷺沢幸一さん アスレながの事務局長  
室賀豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

サッカーとアイスホッケーで長野を生き生きさせたい... お二人の熱い思いがあふれる講演となりました。



**NUPRI**  
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F  
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166  
www.nupri.or.jp  
e-mail: nupri@nupri.or.jp

w a i - g a y a s a l o n n e w s - l e t t e r

わいがや  
サロン

通信

Vol. 4  
2007.2



**NUPRI**  
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所



## 第4回

## 写真で見る長野の街並み

平成19年1月23日(火) 17:00~19:00

講師／清水隆史さん フォトグラファーほか  
司会進行／常盤昭二さん CMディレクター

■座長 岩野 彰 場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911

寒中にもかかわらず日陰の路地に根雪がひっそり残っているだけの長野市街地・暖冬の宵。今回は「写真で見る長野の街並み」と題して、普段着の目線で長野の街を撮り続けているフォトグラファーの清水隆史さんにおいていただきました。CMディレクターの常盤昭二さんにサポート役をお願いした対談形式です。若い感性でとらえた街づくりのヒントを発見できると思います。

## 写真と地図でながのを歩く「街並み」

**常盤** 清水隆史さんは『街並み』という月間写真集を出しているほかにネオンホール(権堂)というライブハウスの代表もされています。私はCMディレクターという仕事のかたわら演劇活動をしており、その関係で清水さんとはかれこれ10年以上のつきあいになります。では、『街並み』はどんな本かというお話からお願いします。

**清水** 『街並み』は2005年8月から月1で街並み再発見をテーマに、“ながの”のある特定の街をあくまで僕の主観で撮った写真を説明を加えず構成、巻末に高井綾子さんの街歩き地図をつけた冊子です。主に県内の書店に置いてもらって、小さいのに500円するんですが(笑)結構マニアックな方もいて1店で100冊売れることもあります。

**常盤** 例えば「川中島」の号、住んでいるのですぐ買い求め、家族で「あ、ここ知っている」などと、すごく楽しみました。どの号も、知らない場所でも懐かしい感じがします。

**清水** 土蔵、しっくい壁とか何気ない古い建物、ただの民家とかアパートが好みなんですね。有名な建築家が建てたわけでもなく、誰も保存してほしいとも言わないような。でも心がなごむ。

**常盤** それは清水さんが古都・奈良市の出身ということも関係ありますか？

**清水** 子どものときから“古いものを大事にすると得をする”(笑)。古い建物に目が行くのも関係あるかもしれません。しかし、立派な建物なら撮る人はほかにいるでしょう。客観的に対象を見て古民家再生の運動を起すことよりも、生活の中の視点から主観的清水という人間が気に入ったものを好きに撮っています。

長野の場合、山や自然のイメージがあり、その類の写真集はたくさん出ていますが、街をテーマにしたものはあまり聞かないと感じていました。新宿、上野……有名な街には写真集があるのに長野の街の景色に注目したものがないのがくやしくて、それなら(自分で撮ってやろう)と思ったんです。

## ながのの“ほっとする日常”を撮りたい。

**常盤** 写真集の写真を皆さんにご覧いただきながら話したいのですが、これは電車が駅に停車中の写真、夕方ですかね。

**清水** JRの牟礼駅です。駅には必ず通勤通学の人が出て、ちょうど雑談している高校生たちがいい感じの顔をしていたのでシャッターを押しました。その街に住んでいる人がいて初めていい景色になると思うんです。

**常盤** なるべく日常を撮ろうという意識をもっているのですか？

**清水** そうですね。長野に暮らしている者として、日常の、ほっとする日常を撮りたい。

**常盤** 日常の一瞬に気付くのは難しいと思うのですが。



「権堂」から始まった写真集「街並み」。最新18号は「稲荷山」。



清水隆史さん

**清水** 8年住んでいて、そのころは趣味で写真を撮りまくっていたんです。住んでいる人は案外多いんですよ。昼間の権堂は夜と違う顔があってステキです。

## 地元ながのを楽しもう。

**常盤** ネオンホールは15周年を記念してCDを出したんですね。

**清水** ええ、来週東京で発売イベントがあります。96年から地元ミュージシャンのCDを出してきました。ホールの発端自体が自分の音楽や芝居を見てもらいたい、自分が面白いことが周りの人も面白く思ってもらえればいいところから始まっていますから。10年そういうことをやって、ネオンホール出身で東京で有名な音楽会社と契約を得たミュージシャンもいます。自分は奈良の出身で、長野にツテや土地を持っているわけでもないですが、自前でここまでやってこれた。地道に長野の地元の表現者をバックアップしていきたいです。

**常盤** 写真では日常ということと言われていましたが、音楽ではどうですか？

**清水** 甲州街道とか中央線を題材にした歌があります。長野に住んでいる僕らは本当は甲州街道の歌を歌うよりも19号線の歌のほうが感情移入しやすいはずなのに、歌はないし、そういうことをやる人がいない。マーケットからすれば意味ないかもしれないが、歌うなら共感したほうが長野の暮らしとしては楽しいはず。だからミュージシャン志望の若い人たちに信越線の歌を作ろうと話しています。ホール発のCDを聴いて、ぜひ長野でやりたいと言ってくるミュージシャンやわざわざ聴きに来てくれるお客さんがいるんですよ。音楽は一人でも楽しめるし、気軽に人と交わるからいい。

**常盤** その点が演劇をやっている者として羨ましい。長野から音楽を発信していてどんなことを感じますか？

**清水** いいものはどこ発でもいいはずですが。東京の音楽現場はお金がかかるし戦略的ですが、地方では音楽はお金に結びにくい反面、腕を磨ける。日常生活を楽しみ易く、作品にし易い。ただ僕らがいくら地元の音楽が楽しいと言っても、ほとんどの人はテレビのヒットソングを聞くほうが楽しいという状況がある。

僕らモノを作っている立場から言わせてもらうと、長野では高校を卒業すると東京に出て行くのが当たり前。そういう風潮はとて、何と云うか(ヨロシクナイ)と思います。いま地方はどんどん消費するだけの場所になっていますが、何かを生まなくては場所に残っていかないと。そのためには地元ながのを楽しむことから始まると思うのです。

清水さんはライターとして長野市刊の職人の本にかかわり、また現在信毎夕刊において「手仕事の現場」も連載中。最後に「これから『街並み』にしろ音楽にしろ職人にしろ、地道に市民として楽しむという視点を伝えていきたい」と語ってくれました。その後もお二人を囲んで話は尽きませんでした。



常盤昭二さん

